

宮崎県におけるサーフィンの事故統計 及び海難防止について



令和8年3月30日
宮崎海上保安部交通課

宮崎でサーフィンを楽しまれる皆様へ

宮崎県の海岸は、全国有数のサーフスポットとして知られ、多くの愛好家が四季を通じて海に親しんでいます。その一方で、毎年サーフィン中の事故が発生しており、尊い命が失われる事案や、重大な負傷に至るケースが後を絶ちません。安全対策のさらなる充実が求められています。

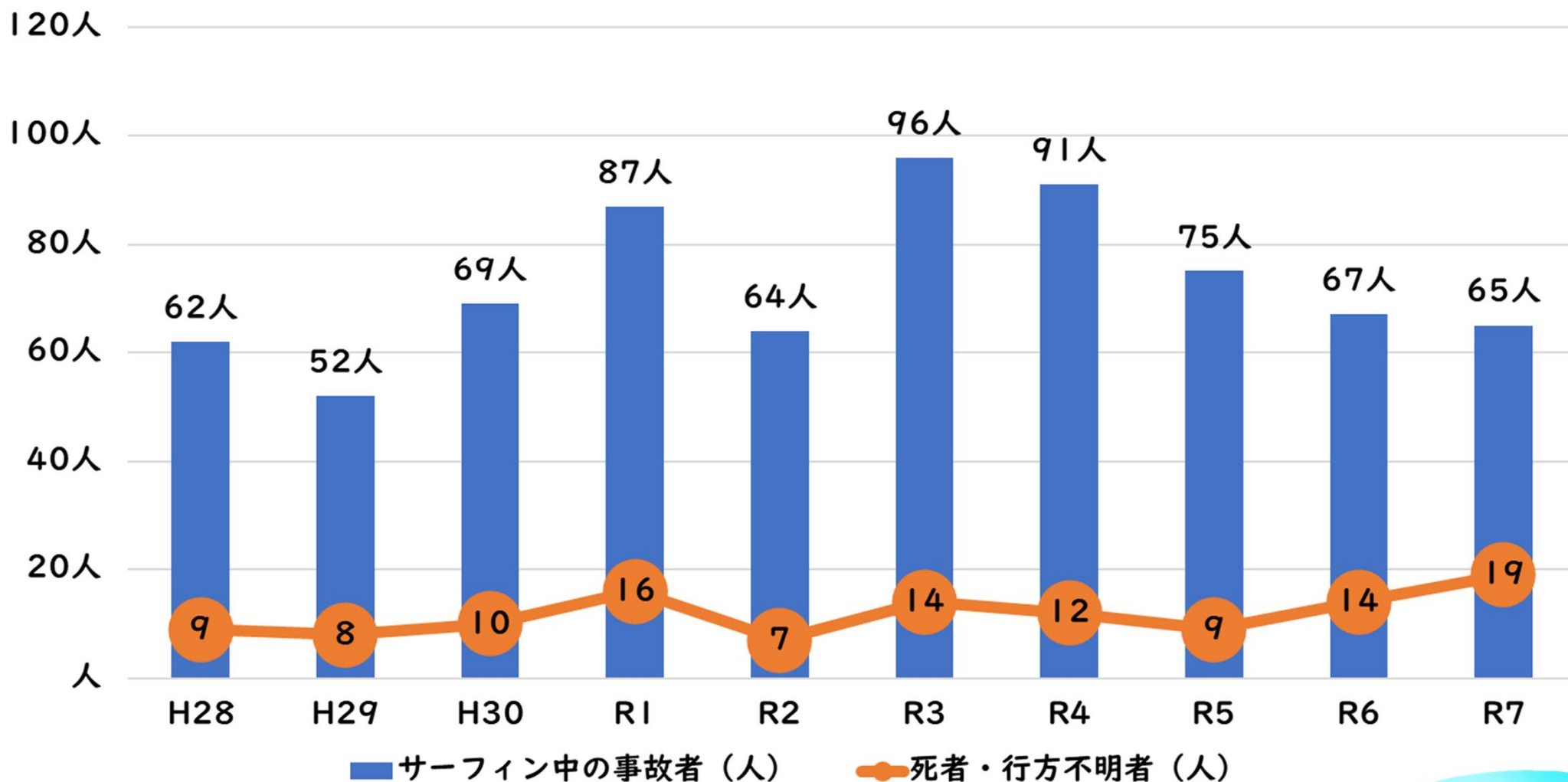
これらの事故の背景には、周囲の不確認等による不注意、気象・海象の急変や離岸流の発生、技量に合わないポイントの選定など様々な要因が考えられます。

こうした状況を踏まえ、事故の傾向や実態を整理し、広く共有することが、安全意識の向上につながるのではないかと考え、本資料を作成しました。

本資料は、全国や宮崎県内のサーフィン事故の発生状況などを統計的に取りまとめるとともに、事故の特徴や留意すべき点について整理しています。サーフィン教室や各種講習の場面での活用に加え、日ごろからサーフィンを楽しまれている方々にも、本資料をご覧いただき、ご自身の安全に対する意識を見つめなおす一助としていただければ幸いです。

サーフィン中の事故について (全国)

(1) サーフィン中の事故の推移【H28年～R7年 全国】



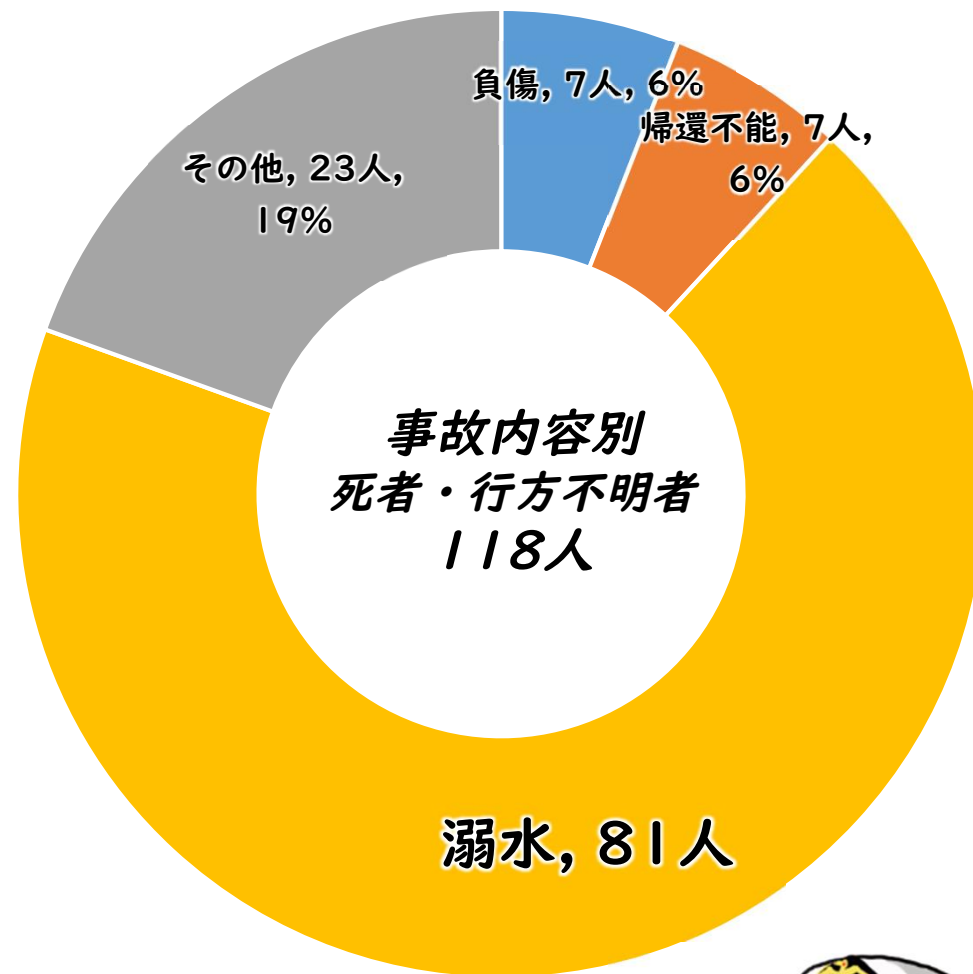
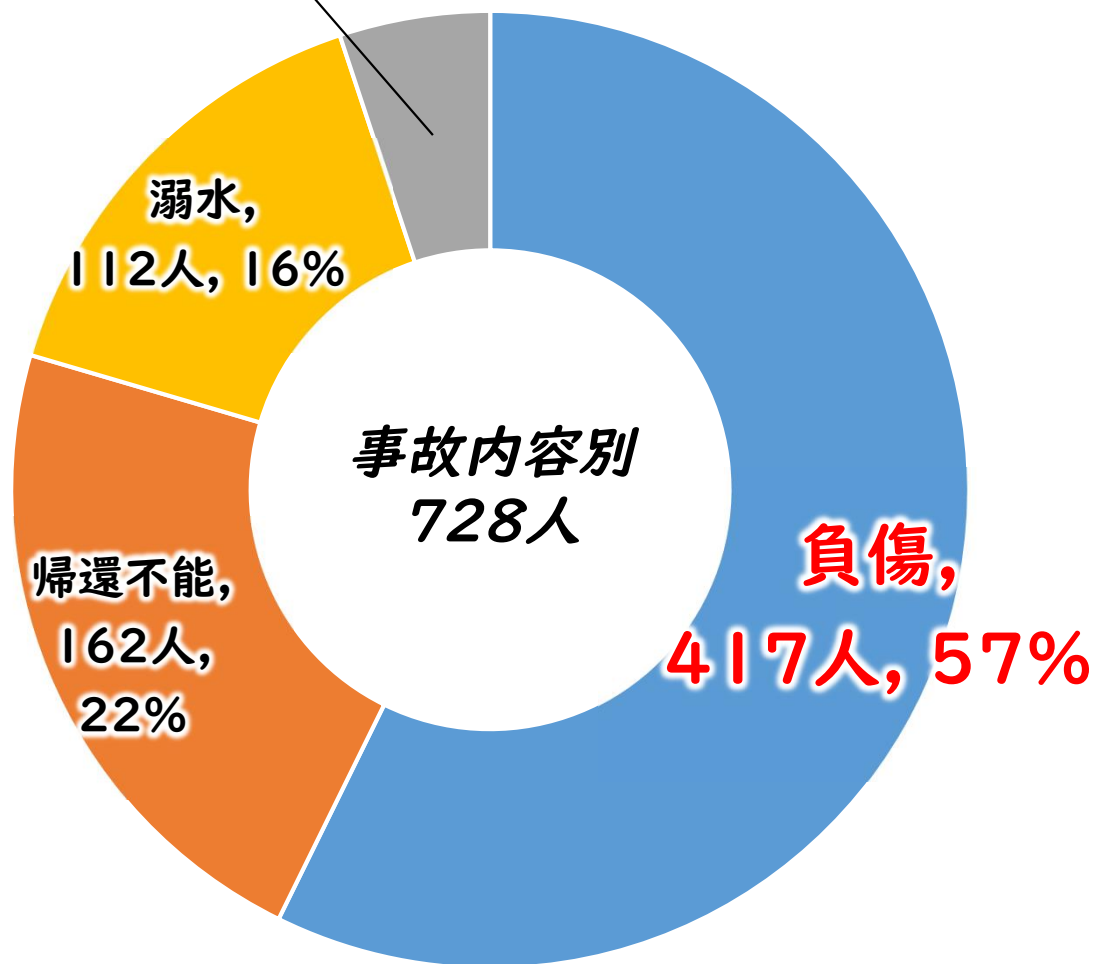
POINT!

- ✓ 過去10年間の事故者数は、令和3年の96人をピークに減少しているが、【死者・行方不明者数】は減少傾向にはない。



(2) サーフィン中の事故内容別等【H28年～R7年 全国】

その他, 37人, 5%

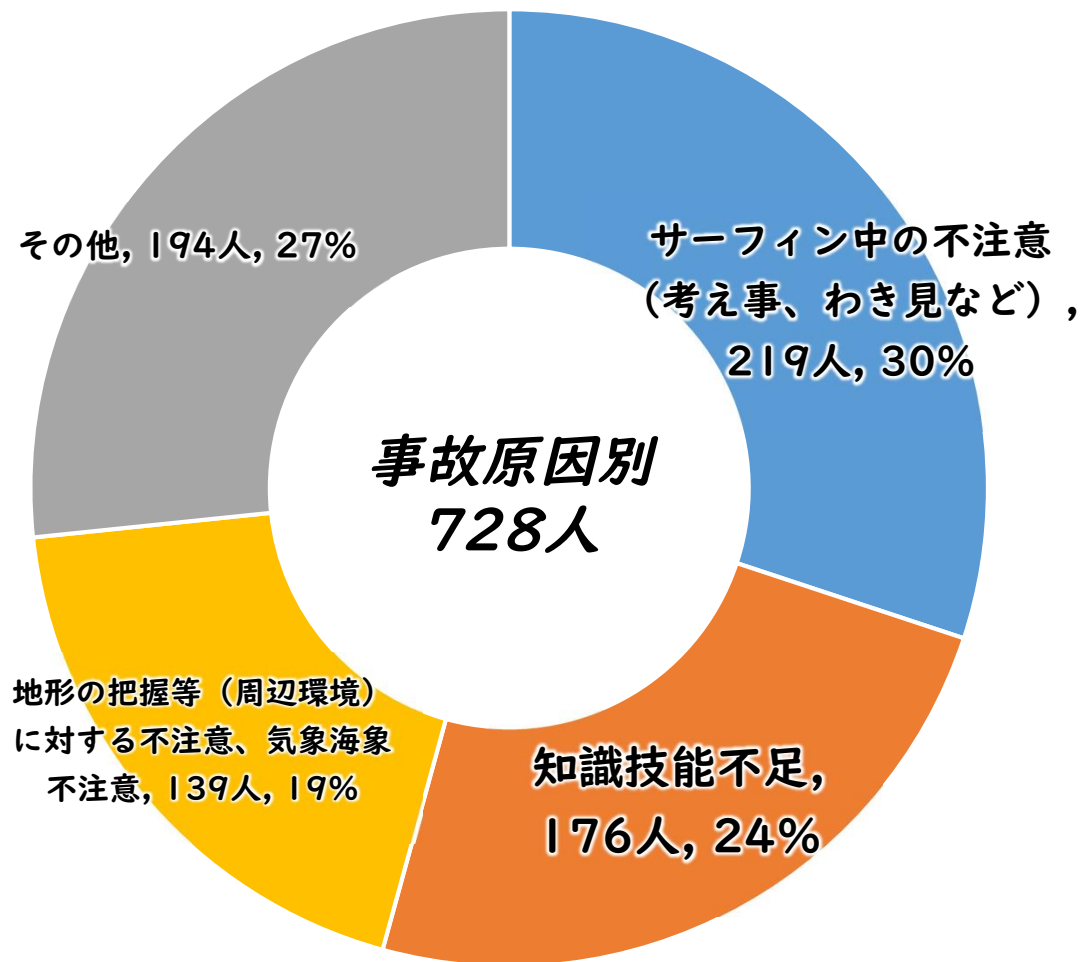
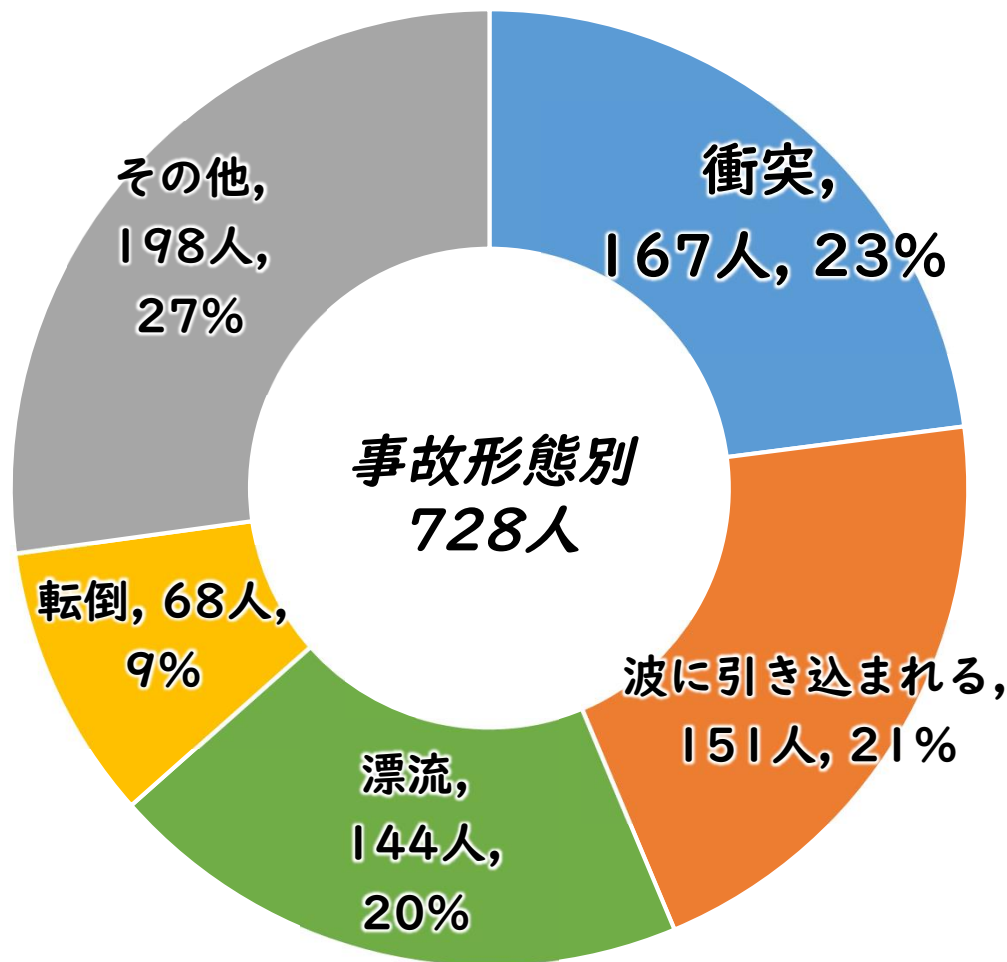


POINT!

- ✓ 事故内容別では、負傷が57%と最も多いが、死者・行方不明者では溺水が最も多い



(3) サーフィン中の事故形態別等【H28年～R7年 全国】

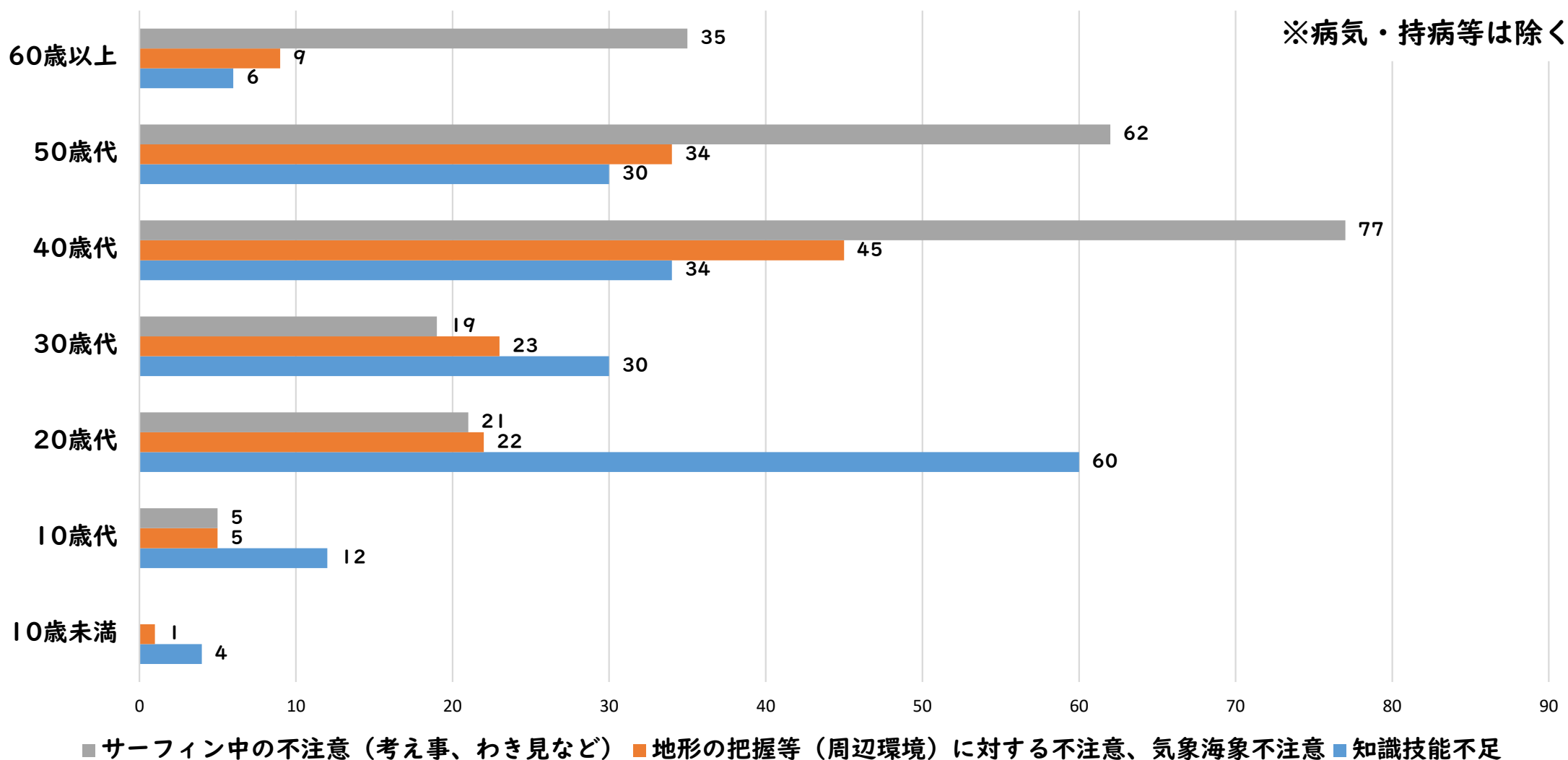


POINT!

- ✓ 事故の形態としてサーファー同士の衝突による事故が最も多く、事故の原因としては、考え事やわき見など、サーフィン中の不注意が多い



(4) 事故者の年齢別発生件数【H28年～R7年 全国】

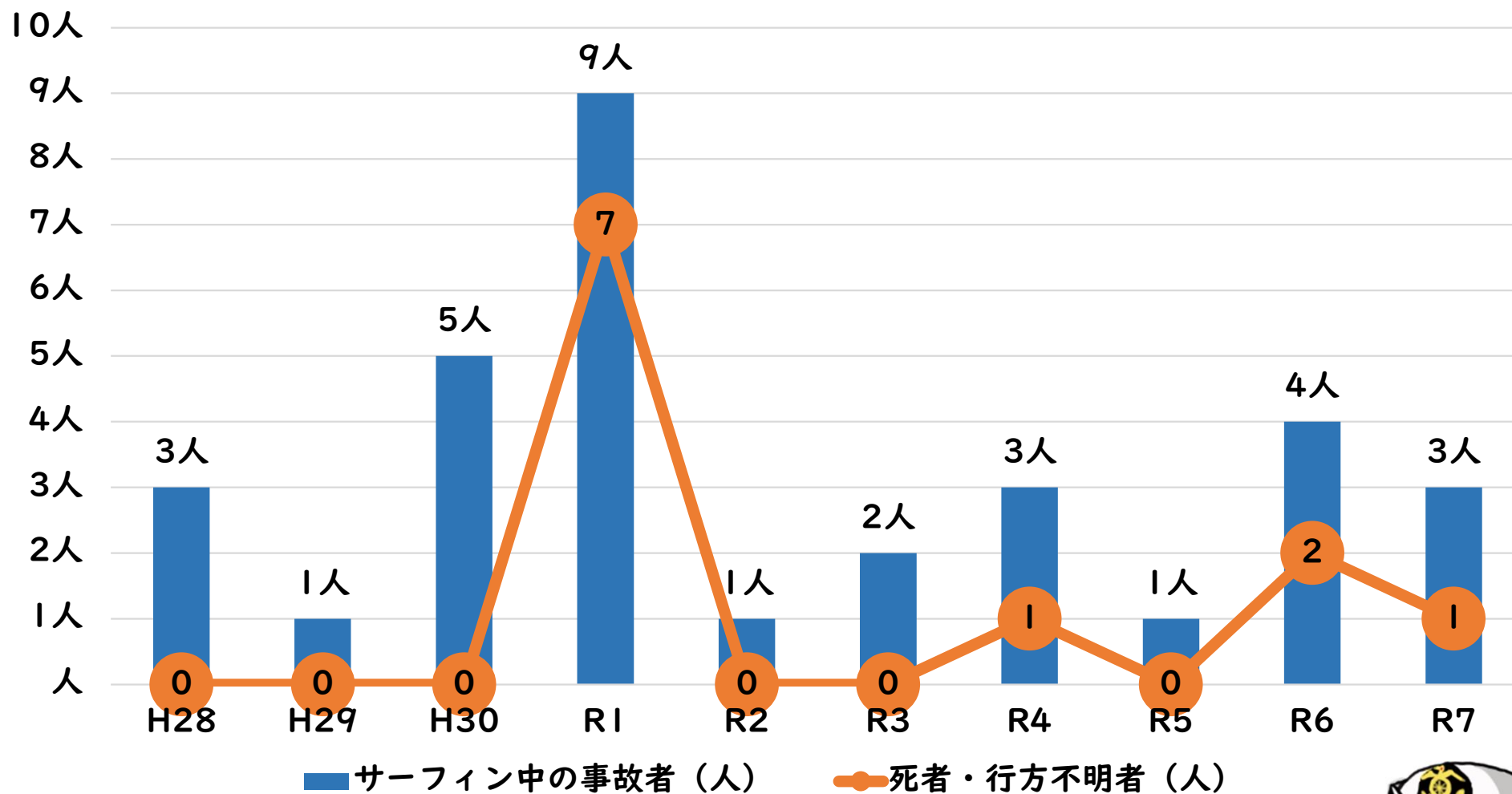


POINT!

- ✓ 事故の発生件数を比較した場合、20歳代から30歳代までは、知識技能不足が原因による事故が多く、40歳代以降は考え事やわき見など、サーフィン中の不注意が原因による事故が多く発生している。

サーフィン中の事故について (宮崎県)

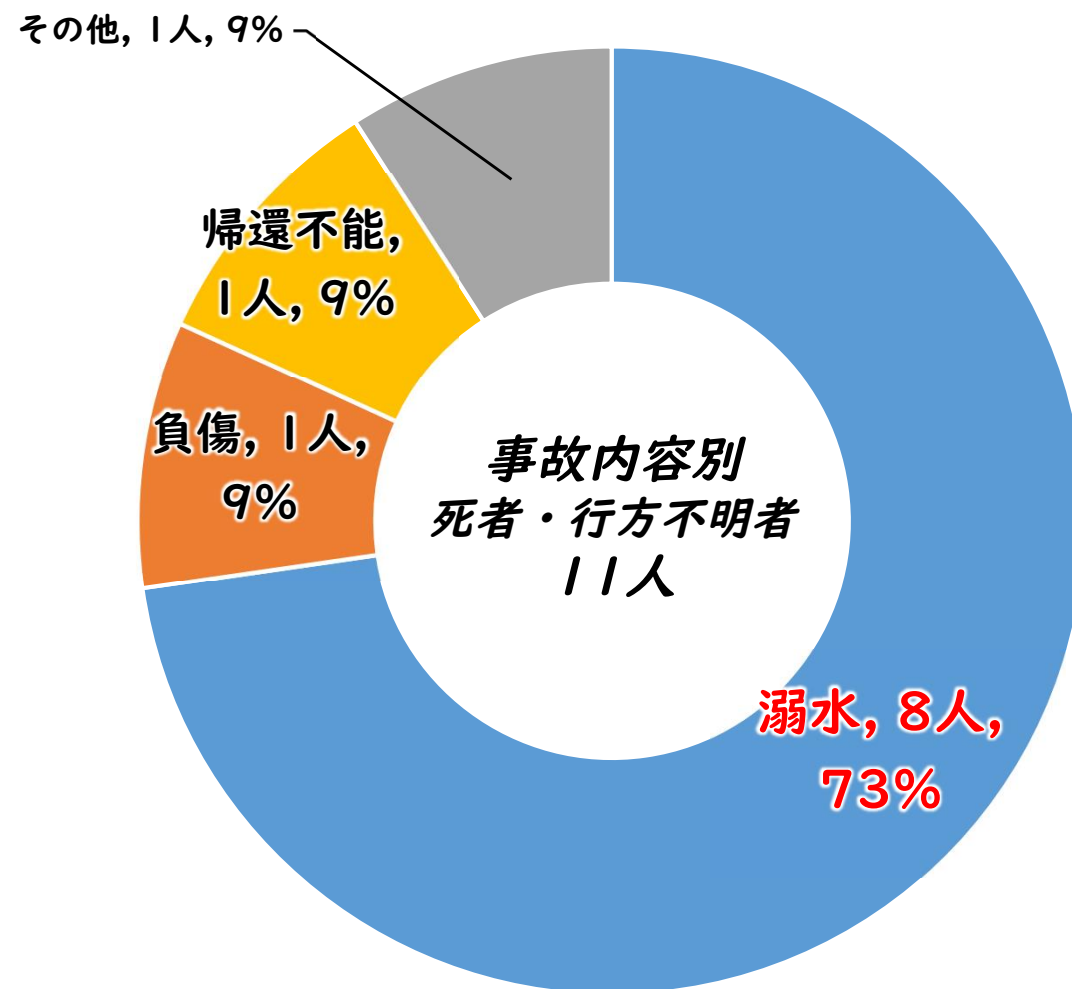
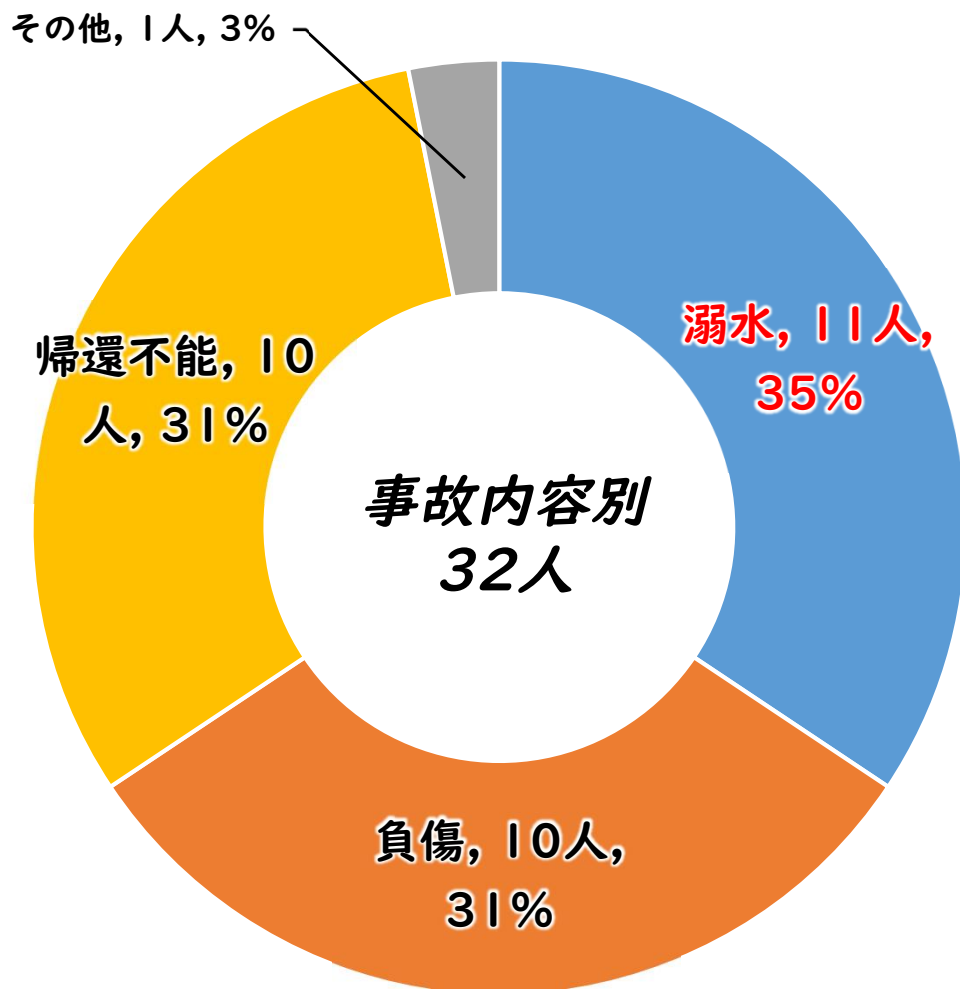
(1) サーフィン中の事故の推移【H28年～R7年 宮崎県】



POINT!

- ✓ 宮崎県内では、毎年、サーフィン中の事故が発生している。
- ✓ 令和元年の死者・行方不明者数(7人)は全国ワーストであった。



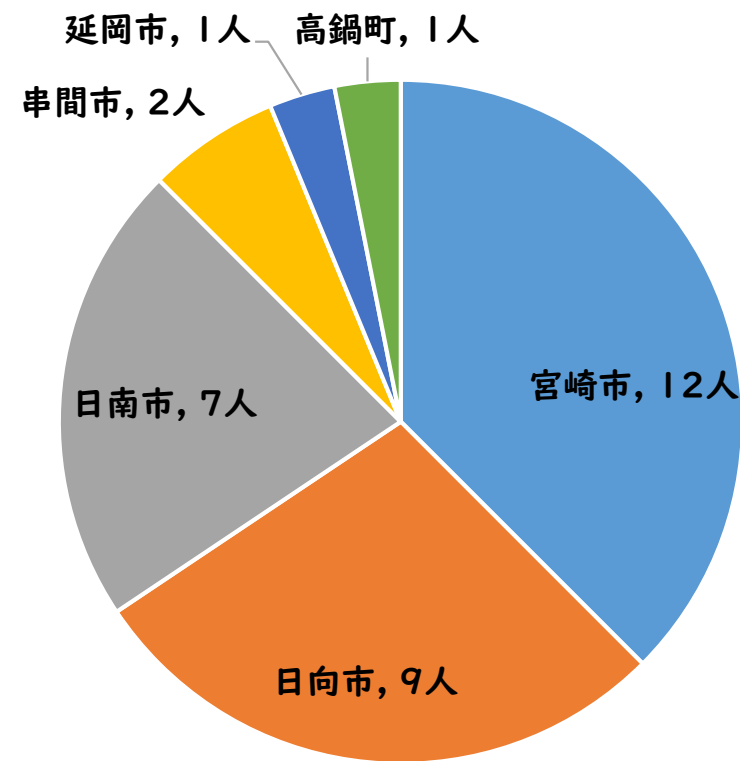


POINT!

- ✓ 宮崎県内では、溺水、負傷、帰還不能の事故がそれぞれ約3割発生している。
- ✓ 死者・行方不明者で比較すると溺水が最も多い。

(3) 事故発生場所別【H28年～R7年 宮崎県】

赤点 死者・行方不明者
青点 事故者（生存）

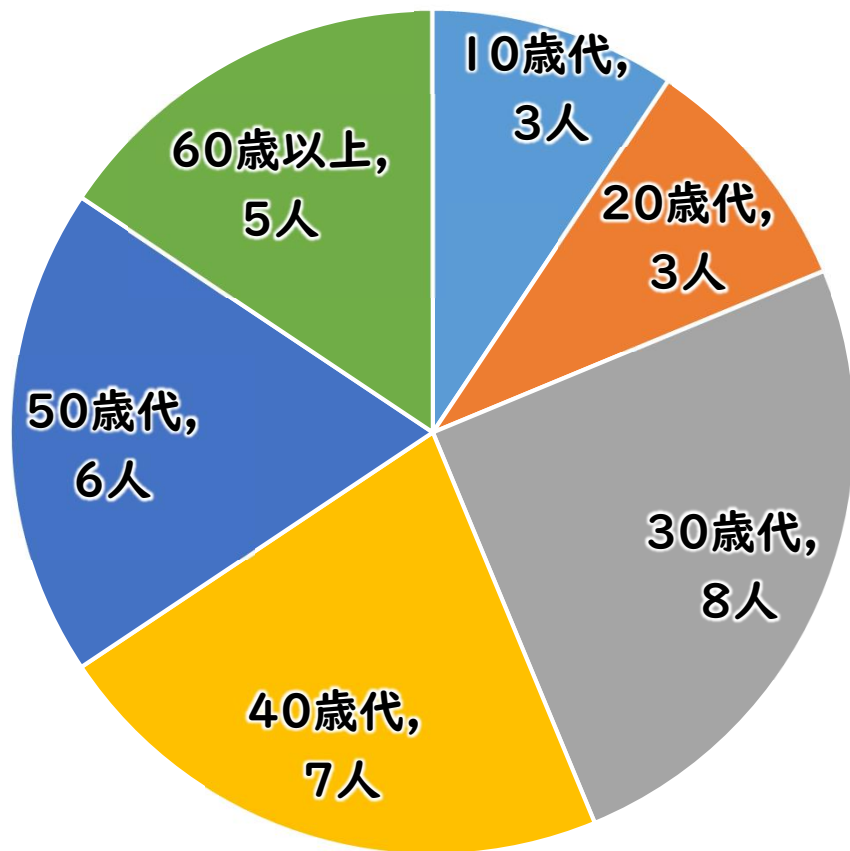


POINT!

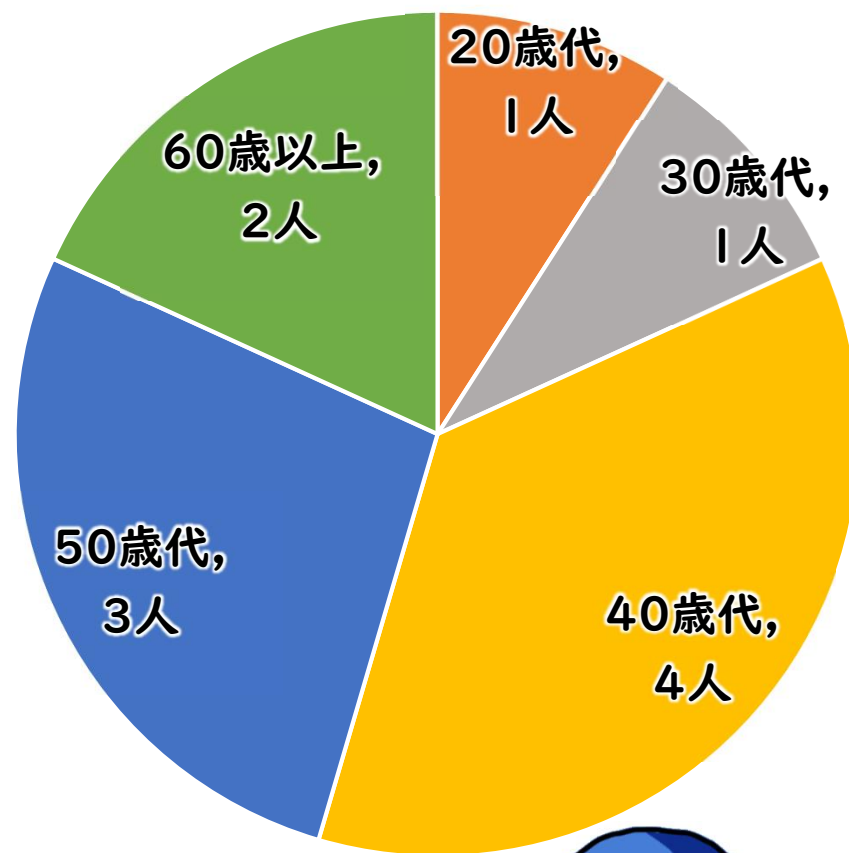
✓ メジャーなサーフポイントでも事故が発生している。

(4) 事故者年代別【H28年～R7年 宮崎県】

事故者年代別 (32人)



うち、死者・行方不明者数 (11人)



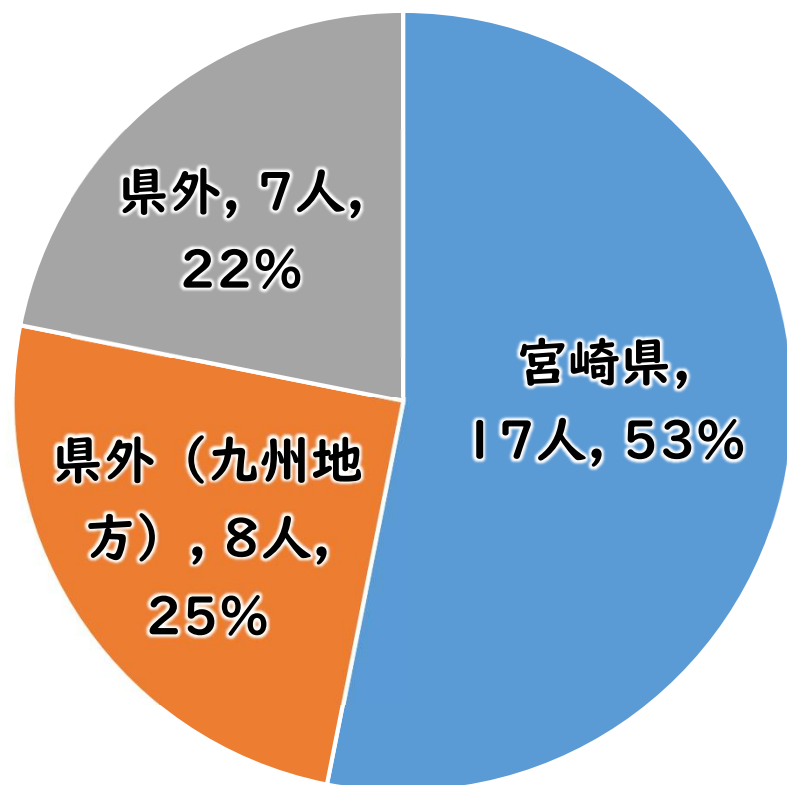
POINT!

✓ 死者・行方不明者数は、40歳代以上が約8割を占める。

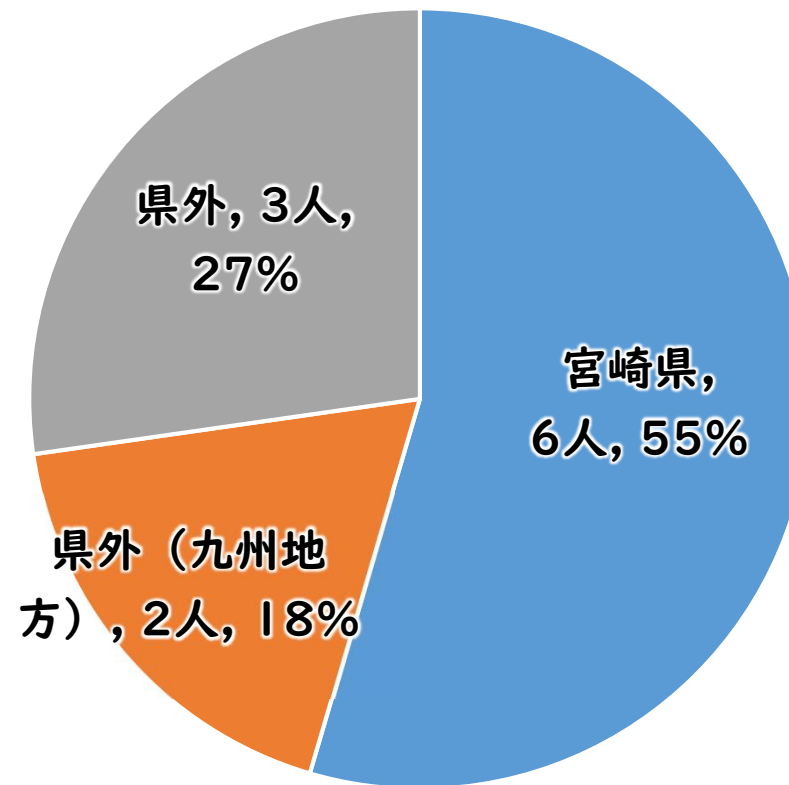


(5) 事故者所在別【H28年～R7年 宮崎県】

事故者所在別 (32人)



うち、死者・行方不明者数 (11人)



POINT!

- ✓ 事故者のうち県内在住、県外在住の方がそれぞれ約5割を占めている。

(6) 事故事例 (帰還不能)

※帰還不能とは・・・漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態となった場合をいう。

事故者は友人と2人で宮崎市木崎浜でサーフィンを開始した。陸岸からの北西の風により沖合に流されたため、事故者はパドリングで海岸に戻ろうとしたが、風が強くなり海岸に戻ることを断念してサーフボードに座り風が止むのを待っていた。その状況を見ていた友人が遭難したものと思い、118番通報したものの。

事故者は加江田川河口沖合距岸200m付近まで流されたが、サーファー2名により救助され、怪我等もなく自力歩行が可能で(消防)不搬送となった。

家族でサーフィンをしに来た事故者含む5名は、日向市所在の伊勢ヶ浜海水浴場でサーフィンを開始した。

義父が事故者及び次男にサーフィンを指導中、事故者及び次男が波により沖に流されたため、義父が助けに向かうも同人も沖に流された。

次男は、自力で岩場に辿り着くも、義父及び事故者の姿が見えなくなったことから同海水浴場に居合わせた目撃者が119番通報を行い、日向市消防の救助隊等にて捜索が行われ、同海水浴場北側の磯場において義父は救助したものの、長男の発見には至らなかった。

(7) 事故事例 (溺水)

宮崎市田吉海岸にてサーフィンをしていた発見者は、沖合い約200メートル先でロングボードでパドリングしている事故者を確認していた。

その後、発見者の前に事故者のサーフボードが流れてきたため、事故者のいた方向を見たところ、事故者が消波ブロックへ泳いでいる状況を認めた。

事故者は消波ブロックを登ろうとしていたが、打ち寄せる波の影響でブロックの隙間に吸い込まれたり出てきたりを繰り返しており、救助を試みるも近づくことができない状況であったことから沖に出るよう伝えたものの、途中で事故者の姿を見失ってしまった。その後、事故者が消波ブロックから意識のない状態で流れ出てきたことから119番通報し、宮崎市所在の病院へ搬送されるも医師により死亡が確認された。

宮崎県児湯郡高鍋町所在の小丸川河口付近で、事故者はサーフィン仲間3名とともに互いに接触しない様、距離をとりながらサーフィンを開始した。

しばらくして、サーフィン仲間が周囲を確認したところ事故者の姿が海上になかったため、先に事故者が陸上に上がったものと思い、残る3名も各々海から上がったが、陸上に事故者の姿が見えず、事故者を探していたところ、海上に浮いている事故者のサーフボードを発見、事故者は漂流中であると判断し、警察や海上保安庁（118番）へ通報を行ったもの。

その後、うつ伏せで浮かんでいる事故者を見出し病院へ搬送したものの、医師により死亡が確認された。

(8) 事故事例 (負傷)

事故者は単独で宮崎市内大淀川河口付近からエントリーしサーフィンを開始した。同日、事故者は強風により陸岸側（消波ブロック側）へ押し流され、サーフボードが消波ブロックに接触した衝撃で海に投げ出された。その後も強い波により体を消波ブロックに打ち寄せられ、かろうじて消波ブロックをよじ登ったものの、左足の小指付け根からかかるとにかけて長さ約5センチの挫滅創を負ったもの。事故者は、左足の傷が深かったため、自身で119番通報し、同日病院に搬送され、同傷口を7針縫合する処置を受けた。

日向市金ヶ浜付近海岸で釣りをしていた通報者は、同所南側の波打ち際でウェットスーツを着用し、リーシュコードでサーフボードに繋がれ、うつ伏せ状態で漂着している事故者を発見。その後、110番通報したもの。事故者は病院へ搬送されるも、医師により死亡が確認された。

事故者は、第4、5頸椎に骨折が認められたことから、死因は外傷性頸椎骨折と判断された。また、サーフィン中、波に揉まれる等して、海底、サーフボード等に接触したことにより頸椎を骨折し死亡したものと思料される。

宮崎海上保安部の活動について

✓ 【令和6年度】サーフィン事故防止に関するアンケートを実施



アンケート結果はこちらから確認できます。



✓ 【令和7年度】アンケートの結果を踏まえた安全啓発活動を実施

宮崎県や宮崎県サーフィン連盟
と意見交換

安全啓発ステッカーの作成
(サーフショップやレンタカー店へ貼付依頼)



- ✓ 宮崎カーフェリーの協力を得て県外客へサーフィン安全啓発活動を実施
(電光掲示板、安全啓発放送)



@フェリー (たかちほ)



- ✓ ビーチクリーンイベントに併せた海難防止講習等

ビーチクリーン



宮崎海上保安部 海難防止講習



日南市消防本部による救命救急講習

